

METHOD OF FIXING SMALL-LOT PACKAGING BAG ON PASTED BOARD

Publication number: JP441589
Publication date: 1969-01-23
Inventor(s): OMORI KOICHIRO
Applicant(s): HONSYU SEISHI KK
Requested Patent:
Applicant Number: JP196545699 19650728
Priority Number(s):
IPC Classification: 134/A/11; 101/J/73; 134/B/3

Abstract

OBJECT: The present invention relates to a method of fixing a bag on a pasted board, which comprises hermetically packaging pulverized foods such as seasonings of juice, curry and hashed rice, detergents such as shampoo, wet paper such as a hand wet wipe, and the like with a single small bag, and then fixing the bag separately or collectively on the pasted board, which is capable of fixing the small-lot bag on the pasted board simultaneously with filling the small-lot bag with the content, and therefore simplifies the packaging.

CONSTITUTION: A method of fixing a small-lot packaging bag on a pasted board, which comprises cutting a paper tube along a stepped broken line at a right angle with a longitudinal direction of the tube, folding the cut tube with about 90-degree shift from the folded position of the time of cutting to allow heights of face and back surface of a tube opening edge different from each other, and then heat-sealing the tube opening edge on the pasted board to be fixed, wherein the inside face of the tube is coated or laminated with a synthetic resin capable of being heat-sealed.

小口包装袋の台紙定着法

特 願 昭 40-45699
出 願 日 昭 40. 7. 28
発 明 者 大森弘一郎
意 訳 市 轉 第 7365
出 願 人 本州製紙株式会社
東 京 都 中 央 区 錦 糸 町 5 の 2 の 4
代 表 者 木下又三郎
代 理 人 弁 理 士 芦 田 直 樹

図面の簡単な説明

第1図は本方法によつて定着した小口包装袋の一例を示す斜視図、第2図乃至第3図は本方法における定着工程を示す説明図、第10図および第11図は本方法における他の実施例を示す説明図にして、台紙と包装袋の関係を示す側面図ならびに正面図、第12図および第13図は第10図および第11図に示す定着法によつて大量の台紙に多数個の小口包装袋をとりつけた場合を示す側面図ならびに正面図である。

発明の詳細な説明

本発明はジュース、カレー、ハヤシの素等の粉末食品またはシヤンパ等の洗剤もしくはおてふき等の漂白紙などを単位かつ小量の袋に密封状に包装し、しかして袋これを単独もしくはまとめて台紙に定着させる方法に関するものであつて、本方法においては小口袋に内容物を収納すると同時に台紙への定着も行わせることが出来る点で包装工程を簡便化するものである。

すでに述べたような商品即ちジュース、カレーならびにシヤンパ等の比較的致密性に富んだ粉末状の品物は使用にも便なる処から小口包装袋として販売することが広く行われている。しかしてこの従来法にあつてはポリエチレンなどの樹脂フィルム、樹脂コートセロファン、樹脂コートアルミ箔または樹脂ラミネート紙などの防湿、保香性をもった袋に内容物を収容し、次いでこれをヒートシールなどの方法により密封してゐたものであつた。このようにして成る小口包装袋はこれを編めて段ボールなどの箱に詰めて取引し、一般消費者に対しては小口包装袋をそのまま陳列して公売せ

られるように運用されている。

周知の通り近年においてはスーパーマーケットのような方式の対面販売形態が広く採用されている。この場合においては消費者の視覚に訴へたいいわゆるアピール力が要求されるから、商品そのものの表面、換言すれば包装袋の表面に美麗な印刷を施し、あるいは商品の性状および使用法等を表示する必要がある。しかるに現在汎用せられてゐる方法は小口包装袋それ自体の表面に必要とする表示を施しているに過ぎないから、狭いスペースも狭小であつて、さしたる効果を挙げていない。このように近年においては小口包装袋にも大きな表面積が必要となつてくると共に特にスーパーマーケット方式にあつては店頭の陳列方式が完備して、商品相互が隣接づけられるに定つて小口包装袋を大きな台紙にとりつける必要が生じてきたのである。

一方従来法による台紙定着法は、実公昭36-735号公報などに見られるように小口袋に内容物を収容してから、一旦これをシールした後、改めて糊付けあるいはステッチ止め、もしくは溶着等により台紙に定着させていたものであるから、封紙および定着の工程を不可欠とし、そのため機械化による定着を実現させることが難しかつた。

ここにおいて本発明は従来の小口包装袋をステッチまたは金具等を用いて単に台紙に吊りつけるような原始的乃至は手工藝的な方法でなしに、機械的手段を用いて一帯にかつ大量に台紙に取付けると同時にそのシールをも行わせることが出来るようにしたものである。以下図面に基づいて具体的に説明するが、本方法を施行するに際して用いる包装袋の材料としてはポリエチレンなどの樹脂コートセロファン等ヒートシール性樹脂のラミネート紙もしくはヒートシールラッカーを塗布した紙等を台紙に用いることも出来るものである。また台紙としては普通の板紙表面にヒートシールの可能な樹脂を塗布したものを用いるのを可とするが、樹脂板それ自体を台紙に用いることも出来るものである。しかして第2図および第3図に示すように、例えばポリエチレン等の樹脂フィルムラミネート紙1を筒状に丸めてその端縁2を筒の縁2のごとくヒートシールして細長いチューブを形成させる。ちなみ